

消費者行動の解析(その2)

一多変量相関・因子分析による冷凍(=凍結)食品の消費者選択の態度一

実践女大家政 ○田中 涼 齊藤加乃子 新村久美子 海津夏代子

目的・方法：全前

<因子の命名>

X1因子	応 用
X2	味覚意識
X3	食生活 経営管理
X4	簡便化
X5	ブランド意識

表I-1 変数の設定

変数1	変数2	変数3
家族数	生活費	省力化志向
家族数	主婦年令	省力化志向
家族数	子供の年令	省力化志向

表II-1

経歴 主婦年令	職 業	応用志向
"	家族数	"
"	学 丁	"

表III-1

生活費	子供の年令	保管志向
"	家族数	"
"	主婦年令	"

表I-4 相関プロット

重相関
① $R = 0.0488$
② $R = 0.02904$
③ $R = 0.03507$

表II-4

① $R = 0.05780$
② $R = 0.05531$
③ $R = 0.05636$

表III-4

① $R = 0.04131$
② $R = 0.07687$
③ $R = 0.05944$

表I-5 重回帰式

重回帰方程式
① $Y' = 0.020X_1 + 0.018X_2 + 1.562$
② $Y' = 0.033X_1 - 0.000X_2 + 1.599$
③ $Y' = 0.024X_1 + 0.003X_2 + 1.578$

表II-5

① $Y' = 0.054X_1 - 0.014X_2 + 1.665$
② $Y' = 0.057X_1 - 0.008X_2 + 1.640$
③ $Y' = 0.053X_1 - 0.004X_2 + 1.671$

表III-5

① $Y' = 0.026X_1 + 0.006X_2 + 1.845$
② $Y' = 0.001X_1 + 0.009X_2 + 1.565$
③ $Y' = 0.016X_1 - 0.009X_2 + 2.079$

- 結果
- ① 重相関・重回帰分析の結果においては、家族数が多いほど省力化志向が強い。
 - ② 因子分析の結果、冷凍(=凍結)食品購入時には、比較的ブランドを重視する。
 - ③ 需要関数の解析結果は、冷凍の生への代替性は低く、生の方がより選好される。